

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度のスローガンを「地域にしっかり根を張り、活気と笑顔があふれるホームを目指します」に設定し、毎朝のミーティング時唱和している。	運営会社の理念と介護方針が作られており、事務所内に掲げられている。理念や介護方針に基づき「スローガン」が作成されている。平成22年12月1日開設ということで今年度のスローガンは管理者が作成した。来年度からは職員全員で新たなスローガンを作成していきたいと職員に伝えている。	管理者の言う「入居者が主役」という「グループホーム稲葉」にふさわしいスローガンが作られているが、外部よりの来訪者には伝えられていない。玄関などにスローガンの掲示をしたり、説明する機会をつくる等、工夫を望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の事業所とそ手協力金を納入し、地域行事などの情報を頂いている。回覧板を回して頂いたり、ホームで地域の方との交流を目的とする行事も出来るだけ多く企画するようにしている。ホームで出るダンボールなど地域のリサイクル活動に提供させていた	入居者と地域の繋がりに力を入れ、開設1年に満たない時点で「夏祭り」を開催し、回覧版や育成会を通じて呼びかけ、地域の方々など150名位の参加があった。すぐ隣が公民館で駐車場が狭いため、ホームの駐車場を提供するなど地域との関わりを大切に考えている。公民館で開催される「お茶飲みサロン」に入居者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所時、地域の方を対象として「認知症サポーター養成講座」を開催。運営推進会議で、地区役員、民生委員さんに認知症への理解を深めていただけるような話を毎回している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月から2ヶ月に1回開催している。正副区長(兼児童館長)、民生委員、市介護保険課、包括支援センター、ご家族に参加していただき、運営報告の他に、積極的な意見交換が出来ている。	6月から2ヶ月に一回開催している。1年未満のホームであり、ホームの現状の報告を最優先に考え伝えている。会議のメンバーである民生委員の協力をいただき担当区域内での独居や日中独居の方々を招待し映画会を11月に開催した。会議の開催予定は委員の方々の都合の良い日に合わせている。	6月より定期的に行われているが、議事録を作成することで職員に会議の内容を伝え、共有化できるようにしていただけたらなお良いのではないかと思う。委員の方々の発言内容を記録として残し、家族の方々にも閲覧していただくような機会を持たれることも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で運営状況の報告。包括支援センターには、入居機能だけでなく、ホームの機能を活用し協力できることがあれば前向きに検討させていただくので、ニーズがあれば声を掛けていただくようお願いしている。	市担当者の運営推進委員会への参加により情報の交換が行われている。介護認定の代行申請を入居者家族より依頼され市の認定調査員とも関わり情報を提供している。あんしん相談員(介護相談員)の受け入れを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠、サイドレールによる囲み等もん含め、自由を奪う行為は身体拘束にあたることを、具体的な対応を通じて伝えている。個々の入居者の実情に合わせた対応で拘束しないケアを実践しているが、ベッドからの転落については不安を感じている	職員採用時には「身体拘束をしないケア」について説明をしている。玄関のカギは掛けておらず、チャイムもない。言葉による「否定」も拘束と考え、否定しないケアを心がけている。定例会等で勉強会を開き、管理者はじめ職員が交代で講師になり学習もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開所時の職員事前研修で扱った。その後の採用職員にも同じ資料を渡し、読んで貰っている。		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が社会福祉士である為、成年後見制度などに関する知識は持っているため、必要と思われるケースでは説明、紹介を行っているが、全体のものにはなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前面接での説明と、入居日には時間に余裕を持って入居していただき、時間を掛けて説明するようにしている。普段の面会の際にもご家族とのコミュニケーションを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様との日常会話や様子、つぶやきの中から埋もれた思いを拾い上げ、さらに記録に残すことで職員間で共有するよう努めている。9月に家族懇談会を持ち、家族会を作りたくは伝えている。半年に1回程度懇談会を予定。	「いなば陽だまりだより」が毎月発行されており、入居者の担当職員による手書きの「生活近況報告書」とともに家族のもとへ送られている。敬老会も家族と一緒に祝いしている。入居者と家族、家族同士、家族と職員との話し合いなどが持たれている。家族の通常の来訪時にも話を聞くように努力している。家族からの意見や要望は職員へ伝え運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回の個人面談は定期化。他に必要に応じ、出来るだけ面談をし気持ちを聞くよう心がけている。会社全体で「飲みにゆけしよん」を奨励しており、活用。他、全体会議や毎朝のミーティングでも職員の声は聞くようにしている。	月一回の定例会は全職員で行われ、その後カンファレンスも兼ね各ユニット毎の話し合いが行われている。人事考課制度が導入されており、半期ごとに「個人の目標」を作成し、個人面談も行われている。ユニットリーダーが職員の要望等を伝えると管理者からの回答が速やかに返ってくるという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の推奨(表彰、手当)。時間外手当の保障。福利厚生の実施を図る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	要所、要所で必要と思われる資料や情報の提供。研修機会の確保。出来るだけ多くの職員が外部の研修を受講できるよう努めている。定期的、計画的な研修については今後の課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大会等への参加やエリア内系列施設との交流の場。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時は必ずご本人、ご家族と時間を掛けて話し合いを持つようにしている。不安な場合や、ご本人が入居を受け入れていない場合は、事前の見学をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接では、これまでのご家族の戸惑いやご苦勞に対して、耳を傾け共感するよう心がけている。その上で、入居後の望む生活について出来るだけ聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、ご本人、ご家族の思いを受け止めた上で、別の選択肢が考えられる場合は情報の提供や紹介、提案などさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけご本人が活躍できる場作りをするよう心がけている。また、生活の知恵や調理の知識、行事の知識など、入居者を頼りにしていることを伝える機会を日常的に持つようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご本人への思いを共有するよう努め、同じ目線で支えて生きたいということを伝えている。毎月担当職員の自筆で、生活報告を届けており、家族との関係が希薄にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には規制を設けず、自由に入出入りしていただいている。また、墓参や自宅へ立ち寄ること等、ご本人から希望があったり、職員からお誘いしたりして個別に出かける機会を持つようにしている。	家族の他、友人の来訪を受ける入居者がいる。自宅へ帰りお盆を迎えた方もいる。毎月一回、入居者の娘さんが居室に宿泊しており、「母親のいる場所は実家」ということでホームも継続することを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性や性格、認知症状の特性等に配慮し、小集団でのレクや会話の場の設定、入居者様が自由に交流、使用できる場の設定などを行っている。		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される折、いつでも気軽に立ち寄ってくださいとお伝えした。またご家族が介護に行き詰った時は話に来てくださいと伝えたが、その後積極的な働きかけはしていない。(1例のみ)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントセンター方式を導入し、埋もれているご本人の思いにきづく努力をしている。その過程を通じて、職員の都合ではなく、ご本人の立場で考える職員であろうと努めている。	家族からの聞き取りや入居者本人のつぶやきを拾い、書き留め、日頃の支援に活かしている。言葉での表現が難しく感情的になった場合には前後の行動をふり返り、本人の立場になって考えケアに当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談での生活歴の聞き取り。 センター方式のシートを使い、ご家族にも協力を仰ぎ情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の生活リズムを把握し、出来るだけご本人の望むリズムで生活できるよう支援している。また、さまざまな生活場面で「出来ること」探しに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、ご家族とのコミュニケーションを大事にし、情報や思いを聞くように心がけていると共に、ユニットごとのチーム全員が、情報やご本人の言葉、思いを共有し同じ思いでケアにあたるよう個別カンファレンスの内容を変更し、取り組み始めている。	入居時に入居者や家族の意向を伺っている。職員の担当制をとっているので計画作成時には意見を書きだしてもらい、それらをふまえて計画作成担当者でもある管理者が作成している。作成されたケアプランは家族来訪時に説明している。ケアプランは充実した内容で家族が見てもわかりやすいものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調や身体状況を把握する為のデータの記録の他に、日々の様子や変化等を記録する個別ケース記録、一人一人の言葉や気付き等を記録していくセンター方式シートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リロケーションダメージを回避する為、出来るだけ入院に至らないよう、主治医を軸とした医療協力体制をとっている。 地域に向けて、「いざという時の安心」になってもらえるよう、開放的な施設であるための試み。		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に、入居者様への理解を深めていただけるような場作り。 公民館活動への積極的参加や育成会との交流。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	強制はしていないが、事業所の協力医を主治医としている場合は、出来るだけ事業所で受診支援をしている。それ以外の主治医とも、事業所から直接上申、問い合わせが出来るような関係作りに努めている。	入居時に家族よりの依頼で主治医をホームの協力医に変更されている方が多い。協力医による往診が可能であり、予防接種などもホームまで出向いていただき全員が接種している。職員付き添いで受診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、入居者様の日常の健康管理、主治医との連携、専門科への受診、介護職員との連携等密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医の紹介状を持参している他、事業所側も看護師が付き添い情報提供に努めている。退院時は事前に病院側から情報を頂くようにしており、可能であれば退院前カンファを持ってもらう、最低でも退院時サマリーは頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的な事例はまだ無いが、終末を見据えた介護の段階を迎えた場合は、ご本人、ご家族の意向を大切に、事業所で出来ること、出来ないことをしっかり伝えた上での選択を支援したいと思っている。	「重要事項説明書」の中に「重度化の指針」と「終末期の指針」が明示されている。運営会社の介護方針の中に「看取りケア」が盛り込まれている。家族の意向を聞き、家族、医師、ホーム職員との話し合いで対応方法を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期に救急対応の研修は行っており、看護職員から、具体的事例や場面での対応の指示、指導を行っているが、今後も継続的に実際の場面で使える知識と技術をしっかり身につけていく必要を感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡物作成。(今後連絡訓練も実施予定) 避難訓練の実施。 地域の消防訓練への職員の参加。 ちいきの消防団長さんに口頭での協力要請はしてあるが、実際の協定はまだ出ていない。	スプリンクラーや自動火災報知機などが整備されている。年2回の避難訓練が年間計画に組み込まれている。今年度は消防署の指導の下、入居者と職員参加で昼間設定で実施した。今後は夜間想定で行うことも考えている。事務所には職員連絡網が掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部方針の中にも一人の「人」としての尊厳を大切にすることがうたわれており、日常ケアの中でも出来るだけ否定の関わりはしないよう、人としてのほこりを大切にしよう、繰り返し職員には伝えている。	法人の介護方針には「個別ケア」がうたわれていて、職員はその主旨を十分理解している。日常生活の中で原則苗字にさん付けで敬意をもって呼んでいる。入居者によっては名前にさん付けの方もいる。開設時の初心を忘れないように職員同士心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日を機に食べたい物の希望を聞きだし実現するようにしている。 個別に、買物・美容院・墓参・自宅など希望を口にしてくれたときは可能な限り対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が望む過ごし方のk¥把握に努める取り組みを始めており、その日の心の状態に応じてできる柔軟性を心がけている。 職員が関わらなくても自主的に、自由に過ごせる場作りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやパーマの希望は近くの美容室に出かけていただくようにしている。 買物外出の企画等、自分の好みの洋服を選ぶ機会を設けたり、化粧品類の買物も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンバイキング等、選択肢のある献立や、誕生日メニューを希望の献立を立てる、外食の機会を作る等している。 おやつを中心に昔懐かしいものをお出しすることも行っている。	食材係が献立を立てている。入居者にも出来る範囲でお手伝いをしていただいている。ランチオンマットが敷かれ、職員の手を借りながら一品ずつ並べる入居者の姿が見られた。誕生日の方には希望すれば外食に出かけたり、好物のメニューなどが用意され、おやつの時間には全員からお祝いをしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人の適量を把握し提供している。必要な栄養量が確保できない場合は、補助食も導入している。 水分は午前午後のお茶にの他にもいつでも出せるようになっており、出来るだけ多くとっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に嚥下状態に不安のある方等については、食後の口腔衛生は徹底させているが、ご本人が自力で行っている方もあり、現状では就寝前の介助・確認のみである。		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のないと思われる方でも、必ずWCIには座ってもらっており、自然な排泄が出来るよう心がけている。	殆どの入居者は何らかの介助を必要としている。個々で失敗したり外からわかるような時には他の方にはわからないようにして場所を変え取り換えている。リハビリパンツ使用の方にはそれとなく職員が声掛けしトイレに誘導している。夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、一人一人の排便状況を確認するようにしている。できるだけ水分を取っていただくようにしており、下剤の調整なども状況を確認しながら、小まめにするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は目安として一人一人割り振っているが、その日の気分や体調によって、柔軟に対応している。自力で入りたい方には、希望通りにしており、1時間くらい入っている方もいるが、せかしたりはしない。	毎日お風呂を立てており、1日に3人の方に入って頂くようにしている。医師から入浴に関する制限を言われている方がいないので本人の好きなだけ入っていただいている。季節のメリハリのある変わり風呂も行なっている。日帰り温泉に行かなかった方が「このお風呂の方が気楽だよ」と満足気に話してくれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごせるよう働きかけは常に行っている。就寝時間は特に決めておらず、その日のテレビ番組や気分で日々まちまちである。不眠のときは自室にこだわらず、場所を変えたり、添い寝したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては看護師が一括管理しており、介護職員に指示・伝達している。誤薬の無いよう、処方箋薬局に薬剤管理をお願いし、一包化と薬袋に日付・氏名・朝昼夕の印字をして貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理の補助・洗い物・片付け等できること・得意なことをやっていただく機会を出来るだけたくさん持たせていただくようにしている。 レク等もその方が主役になれるような場面を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の買物に同行したり、近くの散歩など心がけている。希望があればそれに沿って出かけるようにもしているが、行事として温泉やデパート、外食なども企画している。	お天気の良い日にはホームの周りを散歩している。行事係による年間の外出計画も立てられ、お花見、雛人形の見学、日帰り温泉などに出掛けている。ドライブを兼ねた買い物なども行われている。昼食時に入居者の方が「温泉に行ったことは忘れたんだけど温泉よかったよー」とニコニコしながら話してくれた。	

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金は社会との窓口」と職員には話している。所持したい方は、管理上のリスクをご家族にご理解いただいた上で、OKしているがほとんどの方は、預かり金として、いつでも希望で使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、いつでも使っていたい。ご家族の希望で携帯電話をおかれている方も数名あり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐かしい雰囲気のある家具を置いたり、季節の飾り物をご自分たちで製作し飾っていただいたり、こたつ、ソファ等、その時々に応じてくつろいでいただけるような場所を出来るだけ多く設けるようにしている。	2ユニットのリビングが戸で仕切られていて、普段は開放されている。土地の名前からつけられた「日詰」と「風間」の2ユニット間の交流が自然にできる造りになっている。各居室の入口には入居者の目線に合わせた位置に絵が飾られている。床暖房とエアコンで快適な環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナー・3人掛けソファ・こたつ・ベンチ等、職員と1対1で過ごしたり、気の合う入居者同士で過ごせたりする場を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気と他の方の迷惑になるようなもの以外は持込を制限することはしていない。ご家族にお願いして、以前ご本人が製作された物等持参していただいたり、ご家族の宿泊も出来る等「自分らしい空間」を大切にしている。	仏壇やタンス、椅子などが置かれ、自分が描いた絵や孫の描いた絵が額に入れられて飾られている。居室には洗面台が備え付けられている。ベットとタンスなども設置されているが居室によってはタンスの位置を変えており、雰囲気が大分変わり、その人好みの居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な福祉用具等は積極的に取り入れるようにしているが、不自然な表示・掲示物・家庭的な雰囲気を壊すような表示等は排するよ気をつけている。さりげなく、ご本人が理解できる工夫をしている。		